

研修員's VOICE

Vol. 11

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

エジプトってどんな国ですか？

アフリカ大陸の北東端に位置するエジプトは、多様な歴史と文化で知られる非常に古い文明国です。人口約9,500万人(2016年)、面積約100万km²、国土の約90%が砂漠です。公用語はアラビア語で、少数のキリスト教徒もいますが、国民の大多数はイスラム教徒です。

古代エジプトの遺跡が多く残るルクソールやアスワンは是非訪れてほしい場所です。食べ物では、米や豆類、マカロニに玉ねぎやマトソースをかけて食べるコシャリという料理が特におすすめです。



©JICA/Shinichi Kuno

国民食「コシャリ」




首都カイロはアフリカ・アラブ圏を代表する大都市



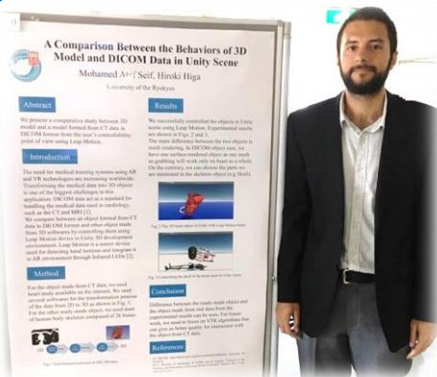
アテフさんは2018年3月に修士号を取得し、4月から半年間オムロンヘルスケア株式会社(京都)にてインターン研修を行う予定です。

氏名: Mr. KHALIL Mohamed Atef
Mahmoud Mostafa (アテフさん)

国名: エジプト・アラブ共和国 

コース名: ABEイニシアティブ※ 第2バッチ・琉球大学

滞在期間: 2015年8月23日 - 2018年9月27日



琉球大学でのポスターセッションにて

どのような研究をしていますか？

琉球大学のバイオメディカル工学分野で、修士号の取得を目指し来日しました。研究の主な内容は、医学生向けの複合現実感(Mixed Reality)訓練システムの構築で、3D形式の医療データを使用できるインタラクションインターフェースの開発です。CTスキャンした2D画像を3D形式に変換したデータと、仮想現実(Virtual Reality)や拡張現実(Augmented Reality)を使用することにより、医学生が実際の人体を使わずに、人間の体内や臓器について理解することができます。

帰国後は日本で学んだことを自国の関係者と共有したり、日本企業が自国へ技術投資する際の手助けをし、日本とエジプトを結ぶ架け橋になりたいです。

沖縄での2年半はいかがでしたか？

寒さが苦手な私にとって、人も気候もあたたかい沖縄はとても過ごしやすく、地元の人々の「いちやりばちよーでー(一度出会えば皆兄弟)」の精神や優しさに多く触れました。

大学では誰もが自分の仕事に時間を割き励む姿から、研究に取り組む姿勢を学びました。ラボの仲間とは日本語で話すようにしていたので、今では理解できる日本語も増えました。いつか日本人と一緒に仕事をしたいと思っており、今からそれが楽しみです。

最後に沖縄のみなさんへ、エジプトは砂漠だけの国ではありません。沖縄と同じように美しい海岸があり、きれいな魚がいます。ぜひエジプトにもお越しください。



大学の仲間たちと

※「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (African Business Education Initiative for Youth) は、アフリカ諸国の優秀な若手人材が、日本の大学/大学院での修士課程教育と企業でのインターンシップを実施するプログラムです。アフリカで産業開発に資する日本とアフリカ間での人脈形成や、日本企業がアフリカで経済活動を進める際の水先案内人として活躍が期待されます。